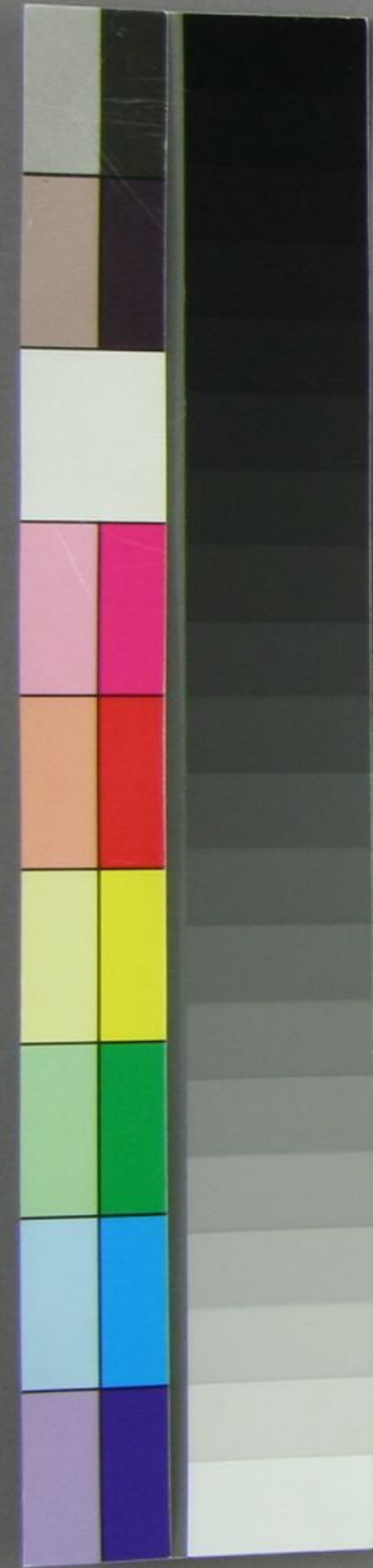


知候も航海にも快楽あり有之日、健康快
 遊政ノ小松相覚の心
 船中ニハ信樂貴も定所りも所々ヲ因テ下
 農商同ノ中世也概及ハ伊豆候本共ノ候ハ
 少くはハ
 定めて侍候不勝之可有之但下ノ下ノ家ノ
 力ハ中ノ自覚あると云フ所リ也其ハ
 権力ノ中心ハ毎カウ概輪ノ中心ナレハ



大西洋上より来る日本

九月廿日白星社船「テウトニック」号ニ乗リ
 出ルル一万吨ノ巨船ニ乗客ニ九七
 便益をまじり勿論ニ一層也ノ行程
 四百ノ十海里一時間ニ二十海里
 の進航ニ同速ニ主目ニ以テ
 十二月の午方ニ上ルル也



岡下明誓書ニ身ヲ保フノ道ニ於テ遺案
ナキ様心ヲ祈ル

伊家侯の本英ニ如何志願合テカ諸儀はり
此共在外の使臣ニ聊カ有迷惑心は
伊家侯程ノ人ナシは随リ合杯と申す
右義よりも飄然野鶴閑雲ノ漫
遊ヲ以ルタハ是レモ恙障リナリ

却ニ好都合ナリシナレト存存併シ阮性
ノ事ヲ以テ致スニ其ノ窮カニ思考ヲ用
臨書ノしニ時表ハ心算未伯計合夫人ニモ
可成候リ仕度ヲ祈ル

昭信三十早者九月
大西伴上ニ
大隈任岡下
徳源生